



小さな子にかかるとう重症化しやすいと言われている「RSウイルス感染症」についてまとめてみました。

RSウイルス (RSV) 感染症とは

RSウイルス感染症とは、RSウイルスの感染による呼吸器疾患です。生後1歳までに半数以上が、2歳までにはほぼ100%の乳幼児が感染し、その後何度も感染と発症を繰り返します。感染を繰り返し、年齢が上がるほど症状は軽くなると言われています。

初めて罹った場合や年齢・月齢が小さいほど、症状が強くなる傾向があります。25~40%の乳幼児で細気管支炎や肺炎の兆候が現れます。小さな子どもほど細気管支炎や肺炎などは重症化しやすい傾向があります。ほとんどの場合は1~2週間で徐々に回復しますが、**重症例では呼吸困難などのために入院が必要**になる場合もあります。

主な症状

- ・発熱 (4-5日程度続くことがあります)
- ・咳 (1週間ほど続くことがあります)
- ・鼻汁



悪化すると、以下のような症状が出る場合があります。
・ゼイゼイ (ヒューヒュー) という呼吸 ・呼吸困難 (喘息様気管支炎、細気管支炎)

通常は1週間ほどでよくなりますが、重症例では3~4週間、継続することもあります。

感染経路と潜伏期間 流行時期

RSウイルスに感染している人の咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びて吸い込むことで感染します。(飛沫感染)

また、唾液や鼻水が付着したおもちゃやドアノブなどに触れた手指を介して鼻や口などの粘膜に付着し、感染することもあります。(接触感染)

感染力が強いため、幼稚園や保育園などの施設内感染に注意が必要です。潜伏期間は 4~6日 (2~8日) です。9月頃から流行し、初春まで続くと言われていましたが、近年では夏季より流行が始まるようになってきています。

診断方法

抗原迅速検査キットを用いて検査をします。綿棒で鼻水を取る検査です。

当クリニックで現在使用している検査キットは5分ほどで結果が出るものですが、**保険の適用は1歳未満の乳児もしくは入院する患児となっています。**

鼻に綿棒を挿入し、鼻水をぬぐってくる検査になります。お子様にとっては苦痛を伴う検査ですが、なるべく短時間で出来るよう努めます。動いてしまうと危険で、時間がかかってしまいます。保護者の方々もご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

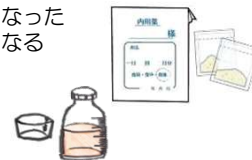


治療方法

残念ながら、RSウイルスには特効薬がありません。処方する薬は、症状を和らげる薬になります。

薬で症状が良くならない場合、咳などがどんどん強くなり、飲食ができなくなった場合は点滴や酸素投与治療が必要になることがあります。

その様な状況になったときには入院が必要になります。



予防方法

・マスクの着用、手洗い、うがいをしましょう。

・咳をしている人は小さなお子様に咳をかけないようにしましょう。兄弟姉妹間の接触も気をつけましょう。

・子どもが良くさわるおもちゃや身の回りの物の消毒をしましょう。消毒用のエタノールや次亜塩素酸ナトリウムを使用すると効果的です。

・タオルや洗面器などの共有は避けましょう。

早産児・先天性心疾患 (生まれつき心臓に疾患がある) 慢性肺疾患を持つ乳児や、免疫不全やダウン症候群の乳児では、RSウイルスに抵抗力を発揮する抗体の注射を定期的に投与することがあります。

主治医の指示に従って、スケジュールを組んで投与を受けてください。

登園について

熱が下がり、症状が落ち着いて飲食もでき元気があれば登園は可能です。



今月の絵本

「むしたちのうんどうかい」 得田 之久・文 久住 卓也・絵

トノサマバッタ、キリギリス、ちょうちょう、だんご虫などなどたくさんのお虫たちで運動会です。かけっこ、玉入れ、おどり、とびっこ競争なーんというのがありますよ! たのしそうですね!! 応援しながら読んでくださいね

クリニックの本棚にあるよ



お知らせ

インフルエンザワクチンの接種を実施しています。

今年もかかりつけのお子様と診察券を持っている保護者の方が対象で**完全予約制**となっています。予約枠の時間が大まかな設定なので、待ち時間が生じる場合があります。在庫数によって、予約の枠が変動しますので、詳細はホームページでご確認ください。

1回 3歳未満 2700円 3歳以上 3200円 1 3歳未満は3~4週あけて2回接種です



次回もおたのしみに~